

市長記者会見記録

日時：2019年1月4日（金）14時00分～14時27分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：平成31年年頭に当たって

【話題提供】川崎市スポーツ特別賞の贈呈について（市民文化局）

<内容>

《平成31年の年頭に当たって及び川崎市スポーツ特別賞の贈呈について》

【司会】 お待たせいたしました。ただいまより市長会見を始めます。

初めに、平成31年の年頭に当たりまして、福田市長からご挨拶をさせていただきます。あわせて、川崎市スポーツ特別賞の贈呈について、話題提供させていただきます。それでは、市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 新年明けまして、おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。昨年を振り返ると、本当にいいニュースが多かった1年だったと思います。また、新年早々、富士通フロンティアーズが3連覇、日本一に輝いたということで、今年もまたスポーツのまち・かわさきの1年が、飛躍の年が始まったのかなということを感じさせる始まりとなりました。

一方で、優勝に沸くそのタイミングで熊本で地震が起きるなど、早くも今年も自然災害が本当に心配されるということを感じさせる教訓的なことも起きたのではないかと考えており、ますます今年も緊張感を持って、地域防災力の向上に、市民の皆様と一緒に頑張っていきたいと考えております。

今年もいいニュースが多く出るようなまちづくりに、職員の皆と一緒に頑張っていきたいと考えております。皆様におかれましても、御指導よろしくお願ひしたいと思ひます。

引き続き、今申し上げましたように、昨日、富士通フロンティアーズがアメリカンフットボール日本選手権第72回ライスボウルで3連覇という偉業を達成されました。大変すばらしいニュースだと思います。今後も常勝チームとして、勝利を積み重ねていただきたいと願っております。昨日の勝利を受けて、スポーツ特別賞を贈呈させていただきますと考えております。以上です。

《職員向け市長年頭挨拶について》

【司会】 それでは、市政一般に関する事項も含めまして、質疑応答に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【幹事社】 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、何点かお伺いします。市長は、今日の午前中に、この講堂で、年頭の挨拶ということで、会場にいたのは幹部職員の方、あと庁内放送もあったんですけども、いかんせん、ちょっとドメスティックなものでもあります。この会見はネット中継もされております。改めてなんですけれども、市長が市の職員の方に、仕事の進め方において、どのような指示や要望、期待を表明されたのか、教えていただけますでしょうか。

【市長】 例え話として、「型破り」と「型無し」とは違うという話をいたしました。私たち行政をやっている人間として、市民の皆様からしっかりと信頼していただくためには、正確な仕事、正しい仕事というのを公正・中立に、しっかりやっていかなければいけません。そういう意味では、型通りのルーチンというか、ルールにのっとった公正な仕事をしていかなければいけない一方で、これまでこういう枠組みでやってきたからこれからはもうそういうことではなくて、いかに型（殻）を破っていくかという発想に変えていくということですね。そういった型がある前提での型を破っていく、そういった仕事を進めていかなければならないよねという話をさせていただきました。

【幹事社】 その挨拶の中で、柔軟な発想を仕事に生かしてほしいということもおっしゃっていたかと思いますが、日々の仕事をかっちりやる中では、柔軟な発想を混ぜ込むのもなかなか大変なことかと思いますが。職員には、どういう仕事ぶりや私生活を過ごすことで、柔軟な発想を仕事に取り入れることができると思っていらいっしょにしませんでしょうか。

【市長】 仕事を離れて一生活者に戻ると、こういうことはおかしいよね、こういう規制は不便だよねと思っていることは、日常生活の中にあると思うんです。それがやっぱり仕事に戻った時に、なかなかそれを突破するのが難しいと思っていることが多々あると思うんですよね。そういった市民感覚、生活者感覚を、しっかりと自分の仕事の中に生かしていくということが必要なのかなと。これはやっぱり違うんじゃないかと、こっちのほうが正しいんじゃないかなと、一生活者、一市民として思うようなことを私たちの仕事の中で生かしていかない限り、市民感覚に合った、市民から求められるような行政というのはできていかないのではないかなと思っていますので、実生活で思っていることを仕事の中にしっかりと取り入れていく、仕組みづくりに生かしていくことが大事だと思います。それは川崎市の条例や規則のみならず、県や国

に対しても、法律がおかしいのであれば法律改正を求めていく、政令がおかしいのであれば政令改正を求めていく、制度がおかしいのであれば制度を変えてもらうという働き掛けも含めて、(これまでの枠組みに) 縛られることなくやっていくことが、私も含め、大事ななと思っております。

《今年の市政運営について①》

【幹事社】 年頭の挨拶とは別に、改めて。冒頭おっしゃいましたけれども、今年の市政運営の方針と抱負をお聞かせください。

【市長】 今年になってから何か新たにということではありませんけれども、これまで地域包括ケアシステムの取組について、地道にやってきて、今、第2段階に入ってきています。それに合わせた地域づくり、コミュニティづくりを、あわせてどうやっていくかということで、これからのコミュニティ施策の基本的な考え方の素案を出していますが、こういった地域づくりと、いわゆる地域包括ケアの多職種連携だとか、そういったものをしっかりと組み合わせていくことを地道にやっていきたいと思っています。とっぴなことをやることではなくて、今までやってきたことを、さらに地道に、地道にやっていくことが、私は最も市民から求められている仕事だろうと思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。幹事社の私からは最後なんですけど、年が明けまして、今年の秋には福田市政の2期目の折り返しになります。1期目は中学校給食の完全実施など、耳目を集める施策を実施しまして、2期目の選挙の時には圧勝されました。今、市長が地味目にともおっしゃっていましたが、2期目はあえて、その圧勝を背景に、地味目の施策をやってらっしゃるのかなと私は推察しております。

その中で、地域コミュニティの話もおっしゃっていましたが、新たに着手したい、あえて言えば地味目の施策、これはちょっと着手したいというものがおありでしたら教えてください。

【市長】 そうですね。やっぱり今申し上げたような、これからコミュニティは、どうということをつながりを作っていくことが大事なのかということ、行政だけが言っても地域は作れないので、市民の皆さんと、今どういう時代背景があって、これからどういう世界観があるんだということを情報共有しながら、その中で求められる、自分たちが求めていくコミュニティはどのようなものなのかを、なるべく小さな単位の中で、議論が活発化するような、派手さはない、地味な作業かもしれませんが、そういうことをやっていくことが、ひいては、これから超高齢化に突入していきます

けれども、そういったところでも、ここに安心して住んでいられるなどということが、地域作りにとっては欠かせないことだと思っています。それは行政のひとりよがりの話ではなくて、市民の皆さんと一緒に議論をしていくと、熟議を重ねていくということに力入れていきたいなと思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。私からは以上です。

《横浜市営地下鉄3号線の延伸について①》

【幹事社】 よろしくお願いたします。

【市長】 はい。お願いします。

【幹事社】 一部報道で、川崎市内にあざみ野から市営地下鉄延伸が、今月末にも共同記者会見という流れがありました。現状、川崎市にとって延伸についての市長の率直な感想を教えていただきたいんですけども。

【市長】 現在、中間駅の位置だとかルート案の検討、あるいは都市基盤に関する整備の可能性等々、様々な比較検討を進めている途中でありますので、横浜市さんとの調整というのはこれからも必要になってくると思います。事業化の判断のタイミングの段階で、しっかりとお示しできるような準備はしたいなと思っています。まだ比較検討している最中ですので、そういった意味では、まだ事業化判断のタイミングではないということでございます。

【幹事社】 事業化判断と同時に、市長のほうから時間もいただけるという。

【市長】 そういうことになろうかとは思いますが。

《人権全般に関する条例について①》

【幹事社】 はい。わかりました。もう一点あります。来年度末までに差別撤廃条例について発表されるという大まかなスケジュールは頂いているんですけども、その後、いわゆるロードマップ的なものとか、それからもう一歩進んだ議論に入っていくかどうかというところを教えてくださいなと思うんですが。

【市長】 そうですね。これから、昨年に議会との勉強会を始めさせていただいて、今年に入ってから、また引き続き勉強会の第2回、第3回を進めていかなければいけないかなと思っていますが、まだ何月までに何かということは申し上げられるタイミングではないかなと思っています。

ただ、目指しているのは、これまでも申し上げているとおり、時期を切って議論していくということですので、おのずとそれに照準を合わせてということに

なっていくと思いますが、この場でも言っていると思いますが、大変大切な条例になるとと思いますので、全ての議員の皆さんが納得いく、市民の皆さんが納得いくような条例づくりを目指して、今年は頑張っていきたいと思っております。

【幹事社】 ありがとうございます。では、各社、質問がありましたら、どうぞ。

《横浜市営地下鉄3号線の延伸について②》

【記者】 すいません。今年もよろしくお願いします。

【市長】 よろしくお願いします。

【記者】 地下鉄の延伸のことについて、加えて、もう一点、お聞きしたいんですけども、新百合ヶ丘、あざみ野をつなぐということなんですけれども、あの地域で路線バスが多くて、バスの利用者が非常に多くて、電車が今までなかった地域で、地下鉄という1つの交通網が整備されるということは、率直に、どのような所感を持たれているのか、ちょっとお聞かせ願っていいですか。

【市長】 事業化判断とか、その以前の問題として、これまで議会でも答弁してきておりますけれども、広域的な交通網としては非常にいい路線になると考えています。そういった意味で、意義は大きいと思っておりますが、改めて事業化判断の段階で、諸々のことについてはお話しさせていただきたいと思っております。

【記者】 事業化判断というところがあるところで恐縮なんですけれども、川崎には北部に行ったら横浜へのアクセスが非常によくなると、一般的にはそう言われていると、各社報道でも言われていると思うんですけれども、アクセスの向上、改善に関してはどのようにお考えというのを、もう一步踏み込んでお話しいただけますか。

【市長】 ちょっとなかなか。現時点では、判断にまだ至っていない段階のコメントは、ちょっと差し控えさせていただきたいと思っております。

《人権全般に関する条例について②》

【記者】 加えて、もう一点だけ。差別撤廃条例、今、幹事社さんもおっしゃったことなんですけれども、市長もかねてから、差別というのは、条例で差別をなくしていくこと自体が非常に悲観的であるということは常々おっしゃっているし、それはごもったもな事だと思えます。その中で、差別撤廃条例で、一部報道で、罰則も含めて検討していきたいということもおっしゃっていたと思うんですけれども、そこで罰則を付けることについては、検討段階ではあると思うんですけれども、その判断は、どのように市で行おうとしているのかというのを、1つ教えてもらってもよろしいで

すか。

【市長】 まさにそのあたりは、今おっしゃっていただいたとおり、罰則の話だけが随分とフォーカスされてしまうんですが、そういうことではなく、やはり差別をなくしていくために、どういうものが望ましいのかということ、あまり予断なく、いろんな議論をして検討しているところでもあります。罰則付きに、もう検討していると言うと、何か、いかにも検討しているかのような、そっちに向かっていくような話に捉えられてしまいますが、そうではなくて、あらゆる面から、今、多角的に検討しているということでもありますので、だから全ての可能性を、一切、別に排除せず、いろんな議論をしているという段階でございます。

【記者】 そこをゼロベースで一旦考えてということですね。

【市長】 はい。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《ふるさと納税について》

【記者】 では、すいません。今年もよろしくお願いします。

【市長】 よろしくお願いします。

【記者】 まさに予算編成の状況なんですけれども、厳しい財政状況というのは、引き続き、かなり、これから先もしばらく続く状況で、具体的な話をすると、昨年度というか、今年度、ふるさと納税の影響額というのは非常に大きかったと思います。それに対して、今年の予算編成において、何らか、その流出に対して対策というか、今の段階で考えていることがあったら教えてください。

【市長】 今、市民、市内外の皆さんにとって魅力的なメニューを、庁内的にもアイデアを出していて、その数がすさまじい数になっているという報告を受けています。これから精査していきますが、いいアイデアを市民、内外の皆さんに魅力的なメニューをちゃんとやっていきたいなと思っています。何も返礼品合戦に突っ込んでいくぞということではなくて、なるほどなというふうな、そういったメニューになるように、みんなで知恵を出し合って頑張っていきたいと思っています。

【記者】 返礼品合戦には乗らないというのは、これまでも市長はおっしゃっていますけれども、川崎らしいようなやり方で、何か、要するに、ほかで流出している、ふるさと納税で出ていっている分を持ってきてもらうというのは、例えば、イメージとしては、どういうことを考えておられるんでしょう。

【市長】 あんまり今固まってないので、あれなんです、なかなかおもしろいのが

ありますよ。こんなこと言ったら、何か、じゃあ、何だっって言われちゃいますけど。

【記者】 いや、全くそうなんです。

【市長】 ですから、現在検討中でございます。

【記者】 いつぐらいまでに、そういうものを。それは当初予算の案の公表と同じタイミングという感じでしょうか。

【市長】 そうなるのかな。いや、まだちょっと、それ、すいません。

【記者】 わかりました。

【市長】 はい。

【記者】 ありがとうございます。

《今年の市政運営について②》

【幹事社】 ちょっと抽象的な質問を差し上げるかと思えますけれども、今年前半の一番大きな政策判断というのは何になると、今時点で思っているのでしょうか。

【市長】 一番大きなのは、やっぱり3号線の事業化判断のところだと思います。大きく、イエスなのか、ノーなのか、しっかり判断するというのは大きなことになると思いますね。

【幹事社】 ノーとおっしゃるのであれば、あまり大きな政策判断にならないかなと思うんですけども、何か、やはり新たなルートや駅を設けるというのを積極的に考えてらっしゃるのでしょうか。

【市長】 いや、何というか、今まさにルート案だとか、中間駅だとかいうところまで比較検討していますので、そういう中での判断になるということですから。うん。何かちょっとおかしいですね。

【幹事社】 はい。

【市長】 ええ。

【幹事社】 判断を楽しみにしています。

【市長】 はい。

【幹事社】 よろしくお願ひします。

【記者】 すいません。今のことで。ノーという可能性ってあるんですか。

【市長】 うん？

【記者】 ノーという可能性というのはあるんですか。というのも、県の予算要望の中の広域的な鉄道ネットワークという意味でも予算要望されておられますし、その中

にも入っていますし、ここからノーという可能性ってあるのかなという。

【市長】 本当にいろいろ、事業費の話だとか、細かく判断する材料というのが、まだ最終的に詰め切れていないというところで、今のところで何ともイエスともノーとも言いがたいというのは確かにありますね。

【記者】 費用負担の割合によっては、ノーという可能性もあるということですか。

【市長】 いや、あまりそこを詰めて言っちゃうと。うーん。相手もあることです。

【記者】 わかりました。

【市長】 はい。

【記者】 すいません。今に関連してなんですけれど、横浜がある程度負担して、川崎も一部負担するみたいなことにおそらくなって、今、現状、そうやっていくのかなというようなニュアンスではあると思うんですけども、そういうことに対して、事業の負担を一部するということに関しては、別にやぶさかでもないというか。

【市長】 ちょっと、それはかなりテクニカルな話になってきていますので、この場では（コメントを）差し控えさせていただきたいなど。このタイミングというのも、なかなか。

【幹事社】 差し控える、その理由というのは、やっぱり費用負担とかが多いんでしょうか。

【市長】 いや、もろもろ。今まさに調査して、比較検討している段階での話ですから。

【幹事社】 どっちかというと、もう川崎市、市域の中間駅であるとか、ルート、山側にも通したいとか、直線ルートを通したいとか、何かそういう比較検討になるんでしょうか。

【市長】 比較検討の中でやっております。

【幹事社】 わかりました。

【記者】 すいません。今年もよろしくお願ひします。引き続き、この横浜市営地下鉄の件なんですけど、先ほど今年前半の、おそらく最も大きな政策判断ということになるというお話だったんですけど、今年前半というのは、1月中にも、そういう判断をされるという理解でよろしいんでしょうか。

【市長】 これまでも今年度中の事業化判断ということで申し上げておりますので、今年度中にはそれは行いたいという意味でございます。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《年末年始の過ごし方について》

【記者】 すいません。年末年始はどのように過ごされましたか。

【市長】 年末年始は毎年同じパターンで、自宅と私の実家と妻の実家というのを3点回って終了という感じですね。あとは富士通フロンティアーズの試合と。最近恒例な。3連覇ですから。

【記者】 わかりました。

《横浜市営地下鉄3号線の延伸について③》

【記者】 1度に終わらなくてすいません。仮定の話はなかなかおっしゃりにくいかと思います。3号線の件に関しては、一緒に事業する・しない、いかような判断もあろうかと思えますけれども、延伸された場合の地域に与える影響と、あるいは好影響はどのようなものがあると考えていらっしゃいますか。

【市長】 コメントしづらいですね。いずれにしても大きな事業ですから、北部地域へのインパクトというのは非常に大きいものがあるだろうなと思いますし、首都圏全体の広域的な交通ネットワークとしても非常に意味のある話なんではないかなというふうに、影響は大きいだろうと。それが実現すればですね。とは思いますが。

【幹事社】 私の浅はかな知識でいえば、市の北部地域であれば、中部や南部に比べてやや高齢化してきている土地でもあり、ニュータウンがオールドタウンになりつつあるような地域でもあるという中で、地域の再活性化に寄与するものなのかなというふうに想像します。市長は、その地域への活性化、具体的な地域への活性化の与える、具体的にどのような影響があると思われますか。

【市長】 ちょっと仮定を前提に、やる前提の話で答えるのが非常にこのタイミングでは難しいですが、今申し上げたように、この話というのは大きな影響があるということは、これは間違いありませんので、いろんな効果が出てくるだろうと思います。仮にやるとなればですね。

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。

【市長】 はい。

【幹事社】 ほか、いかがでしょうか。なければ。

【司会】 よろしいでしょうか。では、以上をもちまして、市長会見を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355